「賛否両論図」を用いたグループディスカッションの効果の検討

西口利文（大阪産業大学）

キーワード：賛否両論図，グループディスカッション，対人問題場面

１．はじめに（授業実践の背景）

課題解決型の能動的な学びを教育の場で実践する手法のひとつとして，グループディスカッションは注目を集めている。しかし，グループディスカッションが，参加者の漠然とした意見交換に終始する場合，そうした学びにつながるとは言い難い。グループディスカッションの過程で，各参加者が論理的思考に根差しつつ目下の課題に取り組むことが，課題解決に向けた能動的学修を実現すると言える。本報告は，論理的思考（帰納的推論および演繹的推論）に根差したグループディスカッションを参加者が系統的に遂行することを目的とした，「賛否両論図」を用いた実践を紹介するものである。そして，その効果を分析したことについても報告したい。

２．方法（授業実践）

対象：大学の「教育方法論」（教職に関する科目）の１コマ（受講者 38 人）で実践した。

使用した教材：①賛否両論図…図１に示すフォーマットであった。グループディスカッションでは，受講者には，議論の対象となる意見に対して，プラス面（肯定的側面）とマイナス面（否定的側面）の見解を整理するために用いるように求めた。

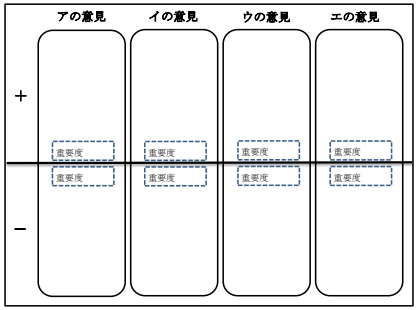

図１　賛否両論図のフォーマット

②対人問題場面と対応事例を記した資料…受講者が取り組む課題として，仮想の対人問題場面（他者との日常のコミュニケーションのなかで何らかの葛藤が生じる場面）の記述（１場面）を印刷した資料を配布した。併せてその場面で発話しうる４種類の言葉かけも印刷した。各言葉かけを当該場面での対応事例と位置づけて，受講者には，各々のプラス面とマイナス面の検討を求めた。

手続き：次の５段階で行った。①授業担当者が授業の趣旨と手続きを説明した（30 分）。②３，４人で１組となるようにグループ分け（10 グループ）を行った（5 分）。③各受講者に，図２の場面での言葉かけに対して，自分の見解を個別の賛否両論図に整理させた（10 分）。④グループディスカッションを，次の a，b，c の手順で実施させた（25 分）。a. グループ用の賛否両論図に全員の意見を集約する。b. 各言葉かけ（アからエ）にまたがって示されたプラス面とマイナス面の見解から，「『…』の特徴をもつ言葉かけは「プラス（またはマイナス）」である」という「法則」を導く。c. 「法則」から，図２の場面でもっともふさわしい言葉かけを導く。最後に⑤シェアリングを行った（20 分）。

ある授業で，テストが来週にせまってきました。Ａさんは，これまでその授業をすべて出席し，試験勉強をするためのノートや資料もすべてそろっています。来週にテストに控えた授業のあと，同じ授業をとっている，顔見知りのＢさんが声をかけてきて，「ノートをコピーさせてもらえないですか？　他に頼めそうな人が，この授業をとっていないのです・・・」とお願いをしてきました。Ａさんは，どのような言葉を返せばよいと考えますか？

ア　「いいですよ。どうぞ使ってください。」
イ　「実はきちんとノートが取れていないので，貸すことができません。」
ウ　「いいですけど，今日中に返してください。」
エ　「ノートは，各自が自分のものを利用するべきじゃないでしょうか。」

図２　対人問題場面の記述および対応事例としての言葉かけ

表１　賛否両論図を用いたグループディスカッションで見られた帰納的推論の事例

グループ	グループで導かれた「いいですよ。どうぞ使ってください。」（事例１）のプラス面の見解	グループで導かれた「実はきちんとノートが取れていないので，貸すことができません。」（事例２）のプラス面の見解	グループで導かれた「いいですけど，今日中に返してください。」（事例３）のプラス面の見解	グループで導かれた「ノートは，各自が自分のものを利用するべきじゃないでしょうか。」（事例４）のプラス面の見解	グループで導かれた「プラス面の特徴をもつ言葉かけ」の法則（法則１）＊左側のセルの下線部分が帰納的推論の拠り所になったと考えられる見解	帰納的推論を行う上でグループで拠り所とされたと考えられる事例数（最大の事例数は「４」）＊左側の色付きのセルの個数に相当	グループで導かれた「いいですよ。どうぞ使ってください。」（事例１）のマイナス面の見解	グループで導かれた「実はきちんとノートが取れていないので，貸すことができません。」（事例２）のマイナス面の見解	グループで導かれた「いいですけど，今日中に返してください。」（事例３）のマイナス面の見解	グループで導かれた「ノートは，各自が自分のものを利用するべきじゃないでしょうか。」（事例４）のマイナス面の見解	グループで導かれた「マイナス面の特徴をもつ言葉かけ」の法則（法則２）＊左側の色付きのセルの下線部分が帰納的推論の拠り所になったと考えられる見解	帰納的推論を行う上でグループで拠り所とされたと考えられる事例数（最大の事例数は「４」）＊左側の色付きのセルの個数に相当
A	友達を気遣い努力化している。相手を助けることができ関係を保てる。	自分のために勉強したいから友人に嘘ついとく。自分がどのようになっているか明確。何の心配もなく自分は勉強したい。	勉強するため今日しか貸せない。今日中に返ってくることが保証され，相手に責任を問わせることができる。相手とトラブルになりにくい。相手を助けることができるし，条件があるので自分も相手もプラスになる。	顔見知りだから少し冷たく言うことができた頼らなくなる。きっぱりと断ることであきらめがつくから相手もちゃんとノートを取る。相手は「ノートは自分で取る」と言われているので，きちんとノートを取るようになる。	相手の気持ちを理解する	2	「どうぞ使ってください」がいつまでに返してもらえるかわからず自分にまた頼られやすい。貸無なくされる。	嘘をついて困っている人を助けないのでもう少し優しい言い方で断る。相手との信頼がなくなる。困っている人への配慮がない。	相手に今日中に返すように言っているので，相手を焦らせる。時間を制激することで相手は少し信用をなくす。	もっと軽くて優しく言うべき。相手が不快感を覚えて関係が悪くなるかもしれない。貸せない理由が明確に示されてない。考えが一方的で相手が不快になる。	相手の短所を助長させる	1
B	まず許可する。意思を伝える。	貸すことができない理由がはっきりしている。	まず許可する。意思を伝える。	自分が思っていることをはっきり言っている。	まず許可する，意思を伝える	4	いつ返ってくるかわからない。	相手が困っているのに貸してあげなかった。	今日中に返してほしい理由を述べていない。	相手が困っているのに貸してあげなかった。	相手が困っているのに貸してあげなかった	2
C	相手を思って優しく伝えている。	理由をつけて断っている。	条件をつけて対応。はっきりと答えている。	はっきり自分の考えを主張している。	自分の意見がハッキリしている	4	期限等を伝えてないから，損するかも。	嘘をついている。	自分の元にかえってこないかもしれない。	関係悪化につながる。	自分が損するかもしれない	3
D	親切で協力的である。	理由をしっかりと言っている。	貸してあげる気持ちはよい。	（プラス面はない。）	相手のことを思いやる	2	いつ返してくれるかが分からない。	ウソをついているようにもとらえられる。	冷たい感じはする。	相手を思いやっていない冷たい言葉かけ。	相手を見捨てる	2
E	優しい表現を使う。人助けをしてる。	相手に対し，真実を伝えている。	素直。人を助けようとしている。	素直に伝えている。	人を助けようとしている	2	返ってこない可能性。	嘘をついているかも。	せかしている。	相手に強く言いすぎ。嫌な気持ちにさせる。	相手の気持ちをあまり考えていない	3
F	相手の気持ちに応えている。	しっかりと「ノートをとれていない」と伝えている。遠回しに嫌だと言うことを表現して	相手の気持ちに応えている。いつ返ってくるかがわかっている。	正論を言っている。	相手の気持ちに応えよう	2	相手のためにならない。貸したものがいつ返ってくるかわからない。	良い気分にならない。	急がせるような言い方。	貸せない理由などが言えていない。	貸さない	1

３．結果と考察（授業実践後の分析）

実践後に，グループ用の賛否両論図を回収した。10 グループのうち，グループ用の賛否両論図への記入が適切行われていた 6 グループのシート記載内容について，表 1，2 にまとめた。これらの内容を質的に分析したところ，グループディスカッションにおいて，帰納的推論および演繹的推論に根差した議論が展開されていたことが示された。引き続き，多様な観点から，賛否両論図のより効果的な使用方法や実践の効果を分析する必要がある。

＊本研究は JSPS 科研費　25380904（研究課題名「大学生のコミュニケーションスキルを育む教育プログラムの開発」）の助成を受けた。

表２　賛否両論図を用いたグループディスカッションで見られた演繹的推論の事例

グループ	グループで導かれた「プラス面の特徴をもつ言葉かけ」の法則（法則１）	グループで導かれた「マイナス面の特徴をもつ言葉かけ」の法則（法則２）	グループで導かれた「この場面でもっともふさわしいと考えられる言葉かけ」（結論）	演繹的推論から導かれたと考えられる箇所（すぐ左側のセルの下線部）についての解釈
A	相手の気持ちを理解する	相手の短所を助長させる	「今日は貸してあげるけど，できたら今日中に返してもらって，次からはしっかりノートを取ってください。」	「今日は貸してあげる」は，「法則１」から導かれ，「次からはしっかりとノートを取ってください」は「法則２の否定」から導かれた。
B	まず許可する，意思を伝える	相手が困っているのに貸してあげなかった	「今日はノートを貸してあげる。でも今日中に返してください。これからはきちんと自分でノートも書いておくべきだ。」	「今日はノートを貸してあげる」は，「法則１」および「法則２の否定」から導かれ，「今日中に返してください。これからはきちんと自分でノートも書いておくべきだ」は「法則１」から導かれた。
C	自分の意見がハッキリしている	自分が損するかもしれない	「いいですけど，今日中に返してください。次からはノートを頑張って とってみてください。」	「今日中に返してください」は，「法則１」および「法則２の否定」から導かれ，「次からはノートを頑張ってとってみてください」は，法則１から導かれた。
D	相手のことを思いやる	相手を見捨てる	「いいですよ。でも私も来週のテストに向けてノートを使うので，テストまでに返してもらえますか？」	「いいですよ」は，「法則１」および「法則２の否定」から導かれた。
E	人を助けようとしている	相手の気持ちをあまり考えていない	「いいですよ，どうぞ使ってください。自分も勉強をしたいから早目に返してください。」	「いいですよ，どうぞ使ってください」は，「法則１」および「法則２の否定」から導かれた。
F	相手の気持ちに応えよう	貸さない	「（貸すことを許可して かつ期限を定め）次回からちゃんとノートをとってください」	「貸すことを許可して」は，「法則１」および「法則２の否定」から導かれた。